

印刷の土台を支える断裁品質 後加工の高品質に貢献する4台の勝田断裁機

株式会社マージネット

和歌山県西牟婁郡上富田町生馬811-1
代表：池田朗氏
TEL 0739-83-3344
<http://mergenet.co.jp>
圧着ハガキファクトリー
<https://ac-factory.com/>



デジタルオフセット、UVオフセット6色機のUV印刷、パッケージ印刷・ダブルリング製本、在庫保管・出荷までワンストップサービスを展開する和歌山県西牟婁郡上富田町の株式会社マージネット。同社の池田朗社長は「印刷を支える土台が断裁工程と考える。当社は4台の勝田断裁機で印刷、生産工程の流れをスムーズに進めている。化粧裁ち、仕上げ断裁



マージネット 池田朗社長



ポストプレスのカナメとなっている勝田断裁機SH330-HOP JMC7

は印刷物の品質を左右する重要なポイント」と生産工程における断裁品質の重要性とマージネットの経営戦略と述べる。

圧着ハガキファクトリーを運営するマージネットは1989年、デザイン会社『株式会社ばじゃ』として設立。2002年に『株式会社マージネット』に社名を変更し、オフセット印刷をスタートした。デザイン力を活かしたスポットニスや擬似エンボスの特殊印刷に取り組み、県外からの受注も増加。2010年にニス技術を活かして圧着ハガキの生産を始め、2015年に圧着ハガキ・圧着DMの専門サイト『圧着ハガキファクトリー』を開設した。今では同業者からの受注を中心に、圧着ハガキが売上の約3割を占めるまでに成長している。

圧着DMの拡大に伴って宛名印刷の需要が増加し、2017年11月には個人情報な



仕上げ断裁は2台体制。SN330-HOP JMC4fx

どのセキュリティを強化した新工場を竣工。2018年5月にプライバシーマーク認証を取得、2019年には本社工場近くに物流拠点として「マージネット配送センター」を開設した。

セキュリティやデジタル化を推進しながら製本工程は怠りなく設備投資を続け製本部門を「株式会社綴工房」として製本技術を追究している。

「地方では製本の専門会社が無く、最も近い加工会社への搬送に片道2時間以上かかります。地方においては製本工程が



圧着ハガキファクトリーの『One to One DM5』

差別化の武器にもなります。その製本部門で最も重視しているのが断裁品質です。紙が入庫された時、最初に化粧裁ちしますが、断裁は印刷を支える土台と考えています。化粧裁ちの良し悪しは生産と品質の決め手になります。当社は印刷機が四六半裁・B2判の半裁機です。用紙は全判紙を仕入れて勝田製作所の四六全判断裁機で化粧裁ちします。また断裁の専門会社は地方にはありませんからこれを他社に依頼して化粧裁ちするとコスト高になります。自社で化粧裁ちすることでコストを抑え、後工程の仕事考えた化粧裁ちが出来、後工程の仕事もスムーズに出来ます。結果的に断裁の手間を出来るだけ少なくして生産コストを下げます。そして断裁の良し悪しは最終製品の品質の決め手になります」と池田社長は生産効率、コスト、品質など断裁工程は経営課題に直結するという。

断裁の時間短縮が生産工程を効率化

4台の断裁機は全て勝田製作所製。「化粧裁ちと仕上げ裁ちは印刷品質を左右しますから、きっちと紙が断裁でき、紙が



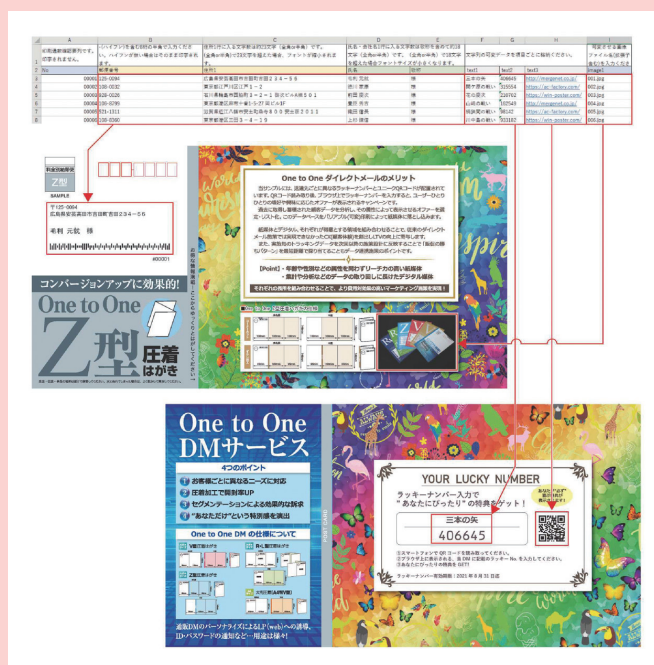
広瀬鉄工圧着コーター



ホリゾン無線綴じ機

曲がったりしないで断裁品質が良いと仕事がスムーズに流れます。堅牢な鋳物と重厚な骨格は断裁品質を高めます」と勝田断裁機に絶大な信頼を寄せる。

勝田断裁機は平成18年にSN330-HOP JMC4fx (1,016mm)、同25年にSN330-HOP JMC4fx、新本社工場建設の平成29年にSH330-HOP JMC7と工藤紙揃機900MJC、ラクーンAL-10を導入した。特に新本社工場時に導入したSH330-HOP JMC7と工藤紙揃機900MJCのシステムは紙揃と断裁機を一体化した。その結果、作業効率が飛躍的上がった。勝田JMC断裁機はコンピュータ制御に優れていることが生産性の向上に寄与し、仕上げ断裁の作業者が2名から1名になり、断裁コストが下がった。安全性にも優れている。目標としていた自動化も進展したという。



バリエブルのOne to One圧着DM

三つの印刷方式に対応するポストプレス

同社が全国展開する圧着DM・圧着ハガキの「圧着ハガキファクトリー」は、この間「集客や売上アップの秘訣がここに！会えない今こそDMを届けよう～顧客をつかんで離さない新しいDMの秘訣」をテーマに「One to One DM」をHPインディゴとオフセットUV、油性オフセットという三つの異なる印刷方式で市場開拓を行っている。用紙も薄紙からパッケージの厚物、デジタルオフセットのマット紙など多彩な種類を使う。これら様々な用紙は「断裁機の力量が問われます」と池田社長。ワンストップソリューションが進化する中で顧客ごとに異なる要望に対応する「One to One DM」は、メタリックカラー印刷やキャラクターといった商品形状に合わせる「変形型圧着DM」などの高付加価値DMが増えている。池田朗社長は「お客様の状況に合わせた“あなただけ”を圧着加工で届けます。コロナ禍でのビジネス提案をお手伝いしています。印刷物に付加価値するためポストプレスの重要性が高まっています」と今後の方向を述べている。